本会の持続的な 発展に向けて

宇田川憲一

本会は1933年（昭和8年）4月11日、「電気化学に関する学術の進歩発達とその工業の発展」を目的に創立され、85年目を迎えようとしています。

長きにわたって学会と産業界の相互協力、理解のもと、本部と支部との相補的な連携で、学術振興、産業発展に資するとともに、時代の要請に即応して創られた専門委員会や、多岐にわたる研究・技術懇談会の活動等を通じて、電気化学の基礎と応用に関する研究の発達、関連産業技術の進歩に邁進してきました。

現在、学界を取り巻く環境は、学術分野においては領域が多様化・細分化される一方で融合化も進み、センサ、ライフサイエンス、環境化学等の最先端の技術と電気化学が結びつく新たな領域での取り組みが積極的に行われています。また、産業界においては国内外での競争が激化し、事業の選択と集中が更に進み、新製品開発の迅速化が求められています。

運営面においては、会員数は横ばいから若干の減少に転じてきており、併せて諸経費も増加傾向にあり、事業の合理化や経費削減の努力に懸命に取り組んでいますが、財政の収支均衡を継続して保つことが難しくなっています。

会長就任にあたって現状を踏まえ、本会の活動をより活性化、効率化し、運営面での充実を図るべく、主に以下の三つの取り組みを行っていききたいと思います。

1. 若手研究者の支援・育成

これまで歴史の多くのページは、若い人々の熱意と信念、創られてきたと言っても過言ではありません。現に、我が国の電気化学産業の黎明期を支え、発展期に新たな技術革新を担ったのは、先達に導かれて学理の研鑽に励み、艱難を乗り越えて功を挙げた多くの若手研究者・技術者の賜物であると強く感じます。

84年という長き歴史に誇りを持ちつつ、変化を恐れずに、若手研究者の皆さんの飽くなき探求心と好奇心で新たな価値を創り出し、未来を拓き、本会の威信を示していただくことを大いに期待したいと思います。本会としても活動を支援する更なる体制づくりに取り組んでまいりたいと思います。

2. 学界と産業界の連携・連帯の更なる強化

加藤与五郎先生は学会誌創刊号で「電気化学協会は一方学術の進歩発達をはかる点に於いては学会特有の機能を十分に発揮させる計画である。然も多面には産業の進歩改善に資し、以て協会の機能をも十分に発揮せんとする。この両機能の併行は頗る有意義と信ずるのである」と述べておられます。学会と産業の“併行”こそが要諦との本学会の創立の精神に立ち返り、新たな学術分野の創設や新産業を興すべく学界、産業界が連携して活動することが大事と確信します。相互の意見交換、交流の場をこれまで以上に設け、意志疎通、協働を図ってまいります。

3. 運営面での改善・充実

本会の運営基盤の安定と発展に向けて、年会費の取り扱いについて具体的な対応を行います。併せて、会誌の見直しや学術講演大会やセミナー企画の充実などの会員サービスを向上させるとともに、電気化学の更なる普及・啓発活動に努め、新たな学術領域の探索を行うなど、より魅力ある学会となるように努めてまいりたいと思います。

限られた時間ではありますが、本会の持続的な発展に向けて取り組んでまいりますので、会員の皆様のご理解とご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

Kenichi UDAGAWA
平成29年度会長
東ソー株式会社 相談役